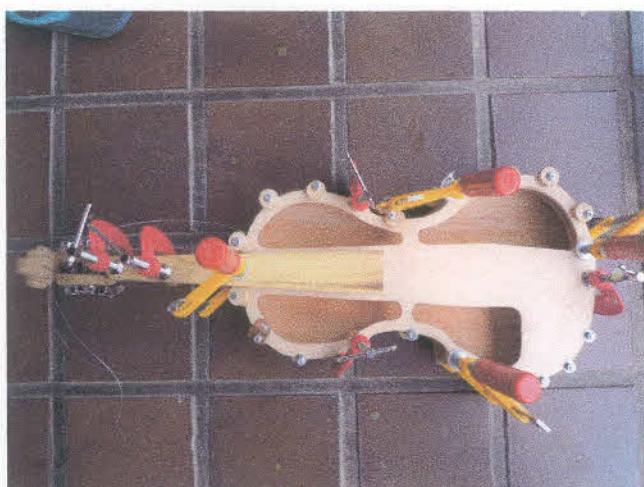


9月
2010年6月

ヴァイオリンと初心者の私

ヴァイオリンと私
四季報 春夏秋冬発行

合併号
第4号 夏号/秋号



エレクトリックヴァイオリンの製作



ネックの製作



内枠を使用し横板の 製作



ブロックにライニングを取り付け

ヴァイオリンで豊かな活動

Violin and me Beginner

Summer 4th Edition June 2010 Four seasons
Autumn

合併号

ヴァイオリンと初心者の私〔四季報〕目次 第4号 夏号/秋号

2010年 6月/9月

- | | |
|------------------------------------|------|
| 1. 木製ミュートの製作 | P2 |
| 2. 普通のヴァイオリンにアンプを接続 | P3 |
| 3. ヴァイオリンの音を目で見る（オシロスコープの活用） | →冬号で |
| 4. 特集・・・ヴァイオリン製作へのチャレンジ（ヘンリイ・ヒペウル） | P5 |

ヴァイオリンと初心者の私〔四季報〕秋号 2010年 9月 記事

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. エレキバイオリンの製作 | P4
→冬号で |
| 2. 普通のヴァイオリンにビブレートを接続 | →連載記事 冬号で |
| 3. 特集・・・ヴァイオリン製作へのチャレンジ | →冬号で |
| 4. ヴァイオリンの音を目で見る（オシロスコープの活用） | |

□□□□ 著者 *Written by*

水川 満祥 みづかわ みつよし

還暦をすぎてからヴァイオリンの練習を始めました。 20歳の頃バッハのヴァイオリン協奏曲を聴きいつかは私もヴァイオリンが弾けたら楽しいなと思っていました。 ヴァイオリンは奥が深くあと3年位でそこそこ弾けるようになるといいですね。 ヴァイオリンで挫折しないように、困難なことは避けて私に出来る容易な方法を選んで、いつまで継続する方法で進んで行きたいと思っています。 108回以上練習すればなんとかなりそう。 ヴァイオリン製作では、基本的に「困難なことは回避して自分にできるやさしい道を選んで目標をクリヤー」することをモットーとします。 60歳を過ぎてクラフトマン（職人）になろうという無謀で欲なことはできませんよね。

□□編集後記 エピローグ

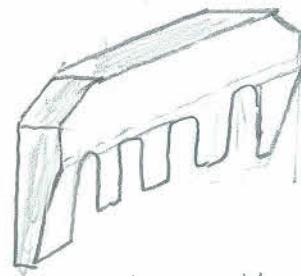
〔四季報〕第4号 2010年秋号の編集を終え、ほっとしているこの頃です。

Violin 初心者として、どのようにしたらヴァイオリンの美しい音色がだせるか一生懸命練習・研究・実験することがこれから的生活となりそうです。 また生涯学習としてヴァイオリン演奏やヴァイオリン製作をいつまでもやってみたいです。 こんなViolinの楽しみ方もあるの という感じで読んでいただけるとうれしいです。

木製 ミュートの製作

Vn SKII

市販の金属製ミュートはかなり音量を抑えます。少し音量を大きく少量のミュートが可能な木製ミュートを製作しました。



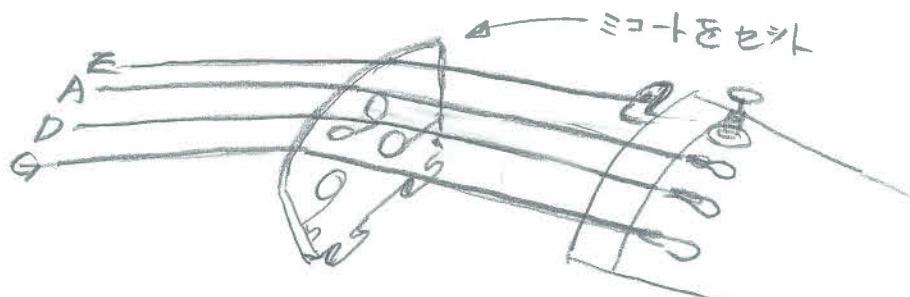
左右対称な木片を
2枚作る。

2板の木片を
ボンドではり合せ

実際に使用してみて音量は約-3db(½)に抑えられました。
音質はこもった感じであまり良くありません。高調波成分のみが
Cutされた感じです。基本波はそのままのようです。ミュートの自作は
難かく、高感度をそのままとして全体の音量を下げるにはやはり
市販の金属製のミュートが良いようです。やはり午後9時以降
の練習は避け、早い時間にミュートなしでウヤイリシ本体の
自然な音で練習するのが良さうですね。ミュートなしで
ピアニシモで弾く方法もありますが、初心者はしつかり音をだす
ボーカンクを練習した方が樂しいです。

金属製 ミュート ----- -10db 約 1/10 の音量

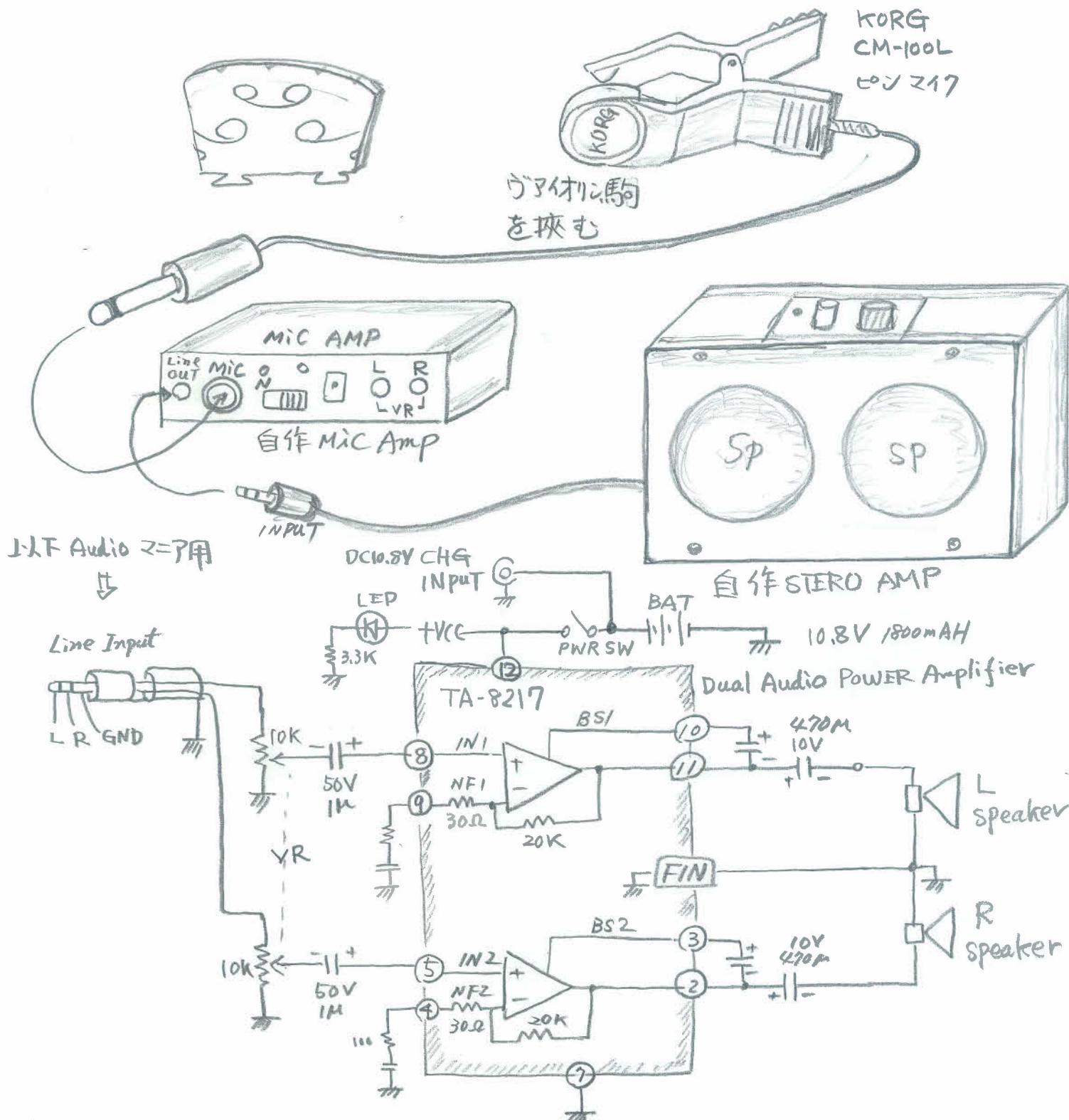
自作木製ミュート --- -3db 約 1/2 の音量 高調波のみ Cut



普通のヴァイオリンにアンプを接続

Vn 1cm

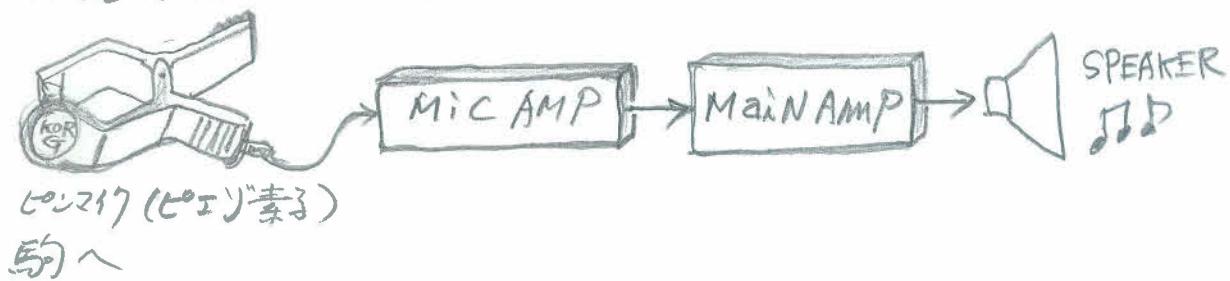
エレクトロヴァイオリンは弦の振動をピックアップマイクで拾い、アンプで増幅し、スピーカーを鳴らします。今回私は普通のヴァイオリンにKORG CM-100L ピンジ型ピックアップマイクを取り付けて自作アンプに接続しテストしました。Ampの出力が次第にかなりの音量となります。



エレキヴァイオリンの製作

Vn 水川

ヴァイオリン製作の練習課題の一つとして エレキヴァイオリンを製作してみました。エレキヴァイオリンは共鳴箱が不要の為 比較的に簡単に製作できそうです。(かも ヴァイオリン製作の練習にもなるよ)。裏板はカエデで ふくら見は少なく、表板は共鳴を無くすため 大きな穴をありました。横板は本物ヴァイオリンと同じ 1.2mm 厚のカエデ板をアイロンで曲げ 合板の内枠を使い エキと言え製作行程は同じです。
ピックアップ素子は安価な KORG ピンマイク (CM-100L) を使用。
エレキヴァイオリン用の本格的なピエゾ型ピックアップ素子は2万円以上します。
電気的接続は前ページの『普通のヴァイオリンにアンプを接続』と同じです。



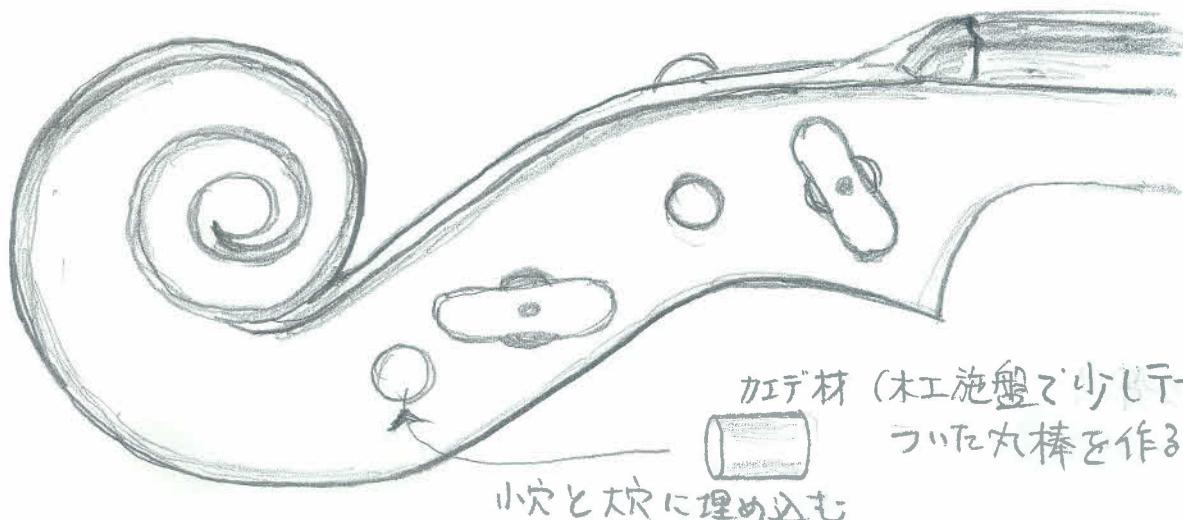
糸巻き器は調弦のしやすさから ギター用ウォームギヤー式 糸巻きを採用

試奏

1. 共鳴箱が無いので 全く響かなく、アンプ無にしては ペンペンした音です。
2. ギター用ウォームギヤー式 糸巻きは調弦はしやすのですが ネックが重くなり 異和感があり お勧めではありません。→やはり木製ペグが一番
3. 今回はエレキヴァイオリンの試作が目的でした。一応テストできなので、ネックとスクロールを正規の物と交換し 木製ペグを使用。表板はスプールレスで ちゃんと f字穴もあり ふくらみも本物と同じ位に仕上げ エレキヴァイオリン → 自作ヴァイオリン2号機に改造ました。

特集……ヴァイオリン製作へのチャレンジ（ペグとペグ穴）

Unokii



自作ヴァイオリンはペグ穴とペグを仲々うまく合わず調弦しにくいう物となっていました。自作ヴァイオリン2号機ではペグ穴がゆるく音程が狂い使いづらかったです。今回ペグ穴を埋め戻し再び穴を開け直しペグとペグ穴がピッタリフィットし音程の狂いを少なくしました。埋め戻す穴をリーマーで広げ、この穴径に合わせてカーデ材を木工用ボンドをつけ、きつくはめ込みます。ボンドが十分乾燥しカーデ材の出っ張った(外・内とも)部分をカットし、ネックを平らにして、5mmφのドリルで下穴を開けます。次にリーマでテープーをかけ穴を大きくします。さらに仕上用リーマで大キハ穴と小さな穴にピッタリペグが入るよう慎重に穴をテープー状に広げます。

